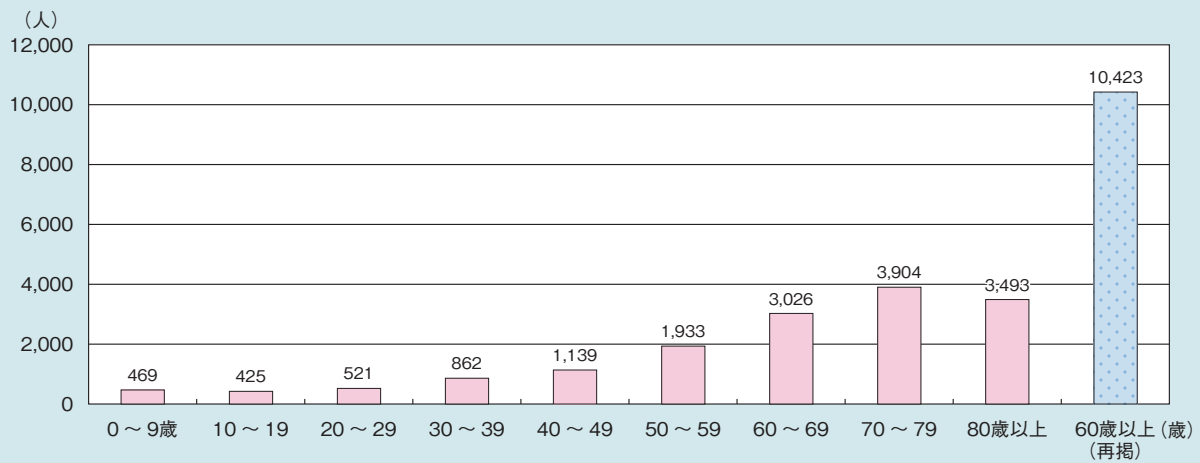


図1-2-4-16 東北地方太平洋沖地震における年齢階級別死亡者数



資料：警察庁「東北地方太平洋沖地震における検視等実施・身元確認状況等について【H23.3.11～R2.2.29】」より
 (注1) 検視等を終えて年齢が判明している者を集計
 (注2) 被害が大きかった岩手県、宮城県、福島県の3県で収容された死者数を集計

5 研究開発等

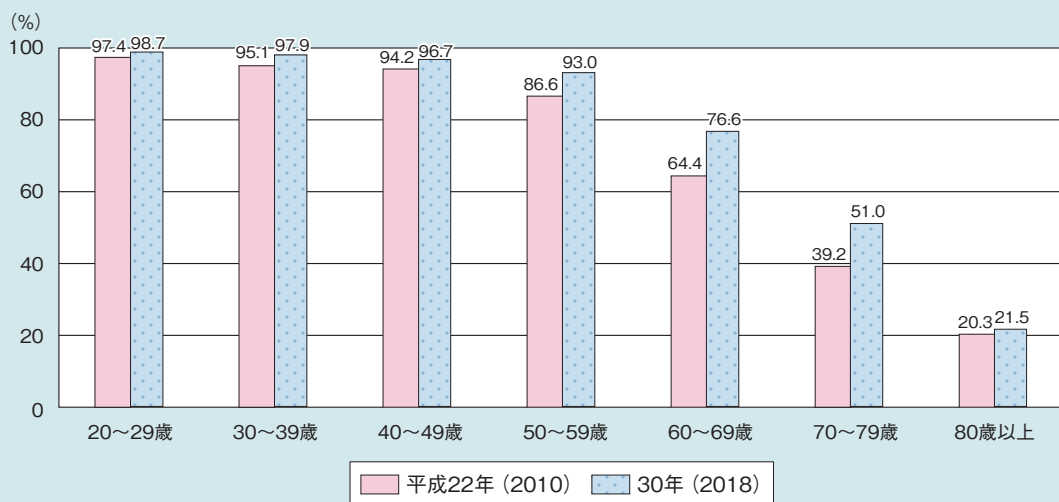
ア インターネットを活用する人が増加傾向

過去1年間にインターネットを利用したことがあるかについて、利用者の年齢階級別に8年前と比較すると、60～69歳が12.2ポイント増と最も大きく、次いで70～79歳が11.8ポイント増となっており、インターネットを利用する

60代、70代の者が増加傾向にある（図1-2-5-1）。

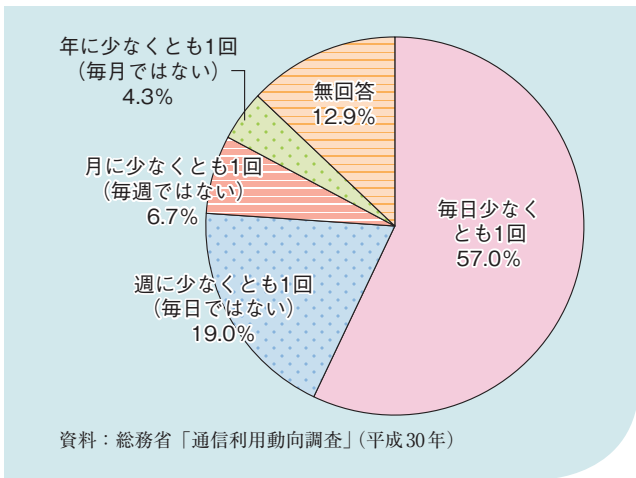
また、インターネットを利用したことがあると回答した65歳以上の者の使用頻度について見ると、57.0%が「毎日少なくとも1回」は利用していると回答している（図1-2-5-2）。

図1-2-5-1 利用者の年齢階級別インターネット利用率



資料：総務省「通信利用動向調査」
 (注) 無回答を除く

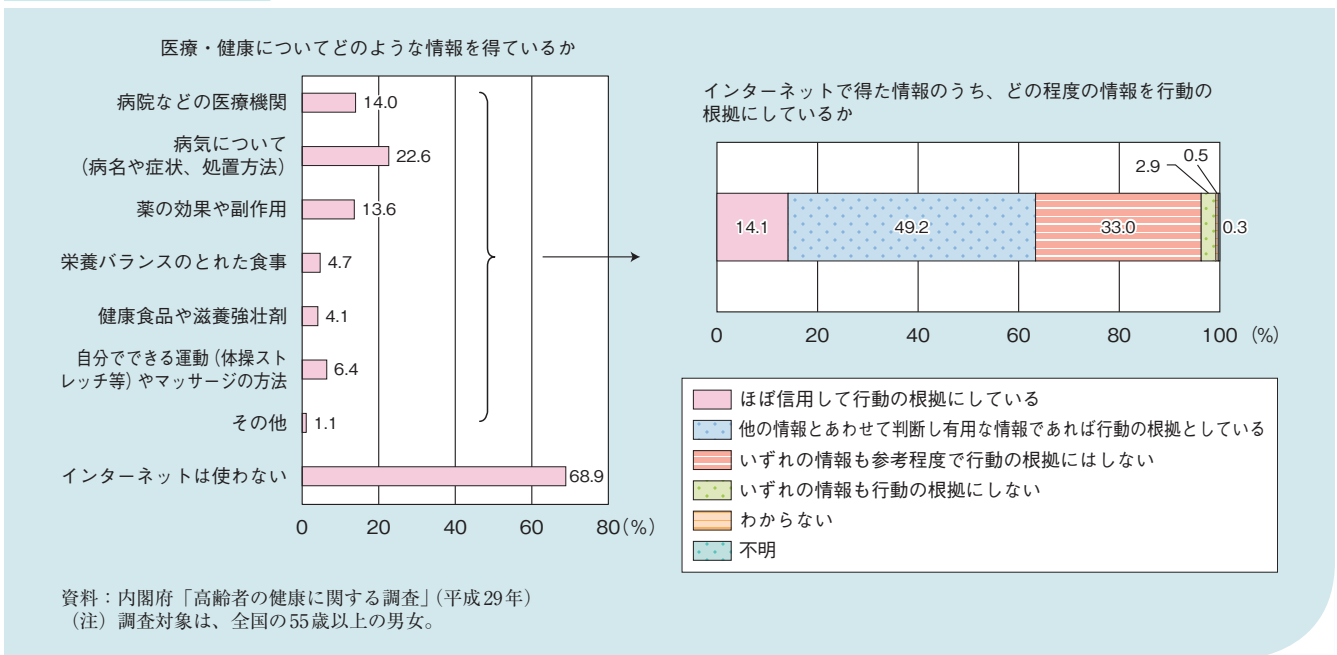
図1-2-5-2 インターネットの使用頻度 (65歳以上のインターネット利用者)



イ インターネットで調べる医療・健康の情報

内閣府が全国の55歳以上の男女を対象に行った調査によると、医療や健康に関する情報をインターネットで調べることがあるかたずねたところ、「病気について (病名や症状、処置方法)」の情報を得ている人が22.6%、「病院などの医療機関」が14.0%、「薬の効果や副作用」が13.6%となっている。また、インターネットで情報を調べると回答した人のうち、どの程度の情報を行動の根拠にしているかについて見ると、「他の情報とあわせて判断し有用な情報であれば行動の根拠としている」が49.2%と最も多くなっている。ついで、「いずれの情報も参考程度で行動の根拠にはしない」が33.0%となっている。「ほぼ信用して行動の根拠にしている」については、14.1%となっている (図1-2-5-3)。

図1-2-5-3 インターネットで医療・健康についてどのような情報を得ているか また、インターネットで得た情報を行動の根拠にするか



ウ 医療機器の市場規模等

健康立国の実現のためには、科学技術を活用して高齢期の様々な課題の解決を図るとともに、高齢者向け市場の活性化を図ることが重要である。ここでは、医療機器の市場規模を例として見ることにする。

(ア) 医療機器の国内市場規模は拡大傾向

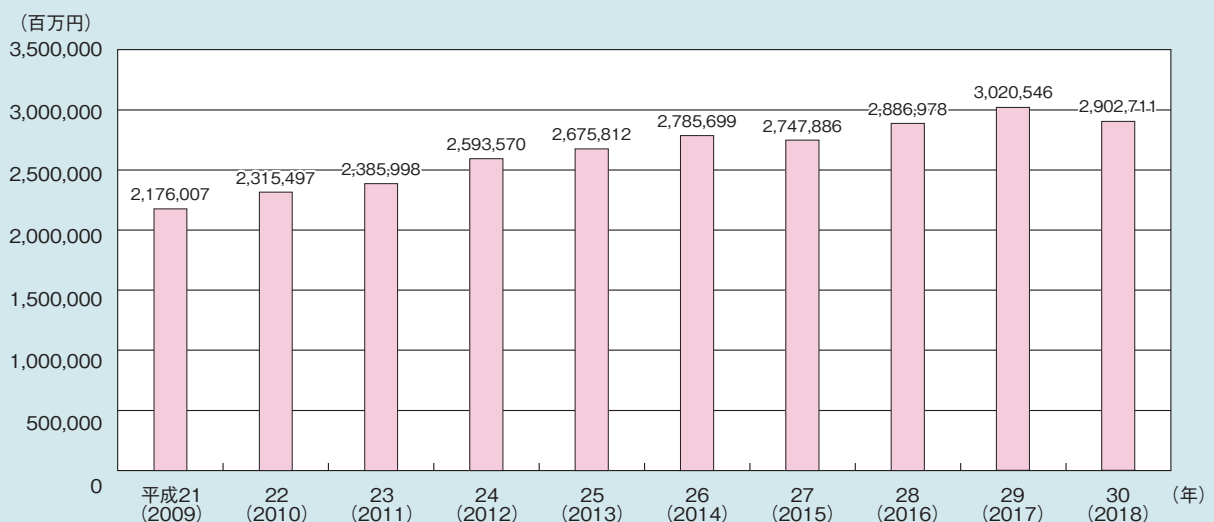
医療機器の国内市場規模の推移を見ると拡大

傾向であるが、平成30（2018）年は約2兆9,000億円となっており、前年と比較して約1,200億円減少している（図1-2-5-4）。

(イ) 医療機器の輸出金額は約5,800億円

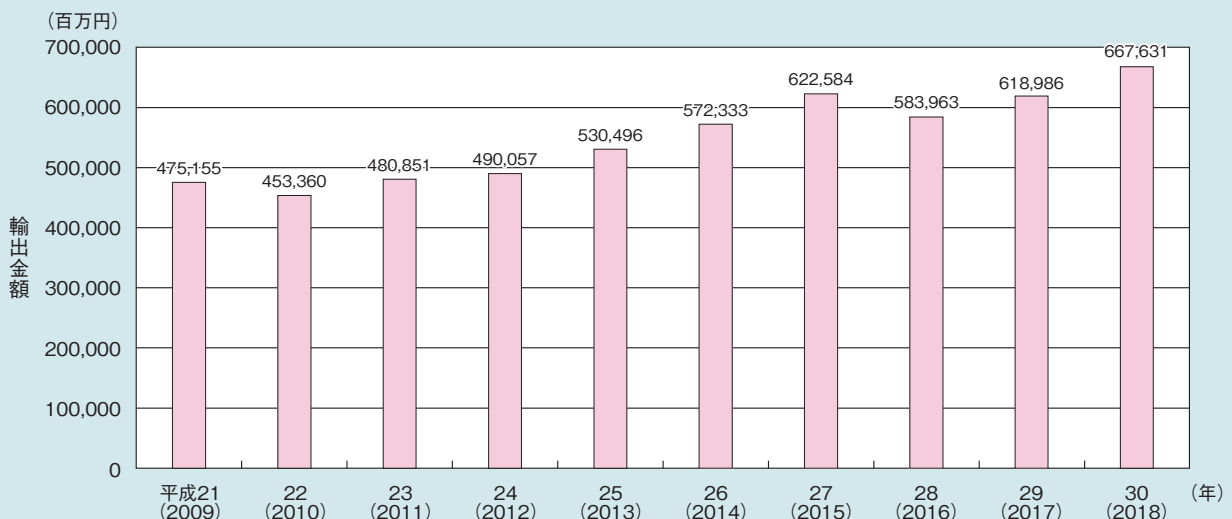
医療機器の輸出金額の推移を見ると、平成24（2012）年以降増加傾向にあり、平成30（2018）年は約6,700億円で前年と比較して約500億円増加している（図1-2-5-5）。

図1-2-5-4 医療機器の国内市場規模の推移



資料：厚生労働省「薬事工業生産動態統計年報」
 (注) 国内市場規模 = 生産金額 + 輸入品国内出荷金額 - 輸出金額

図1-2-5-5 医療機器輸出金額の推移



資料：厚生労働省「薬事工業生産動態統計年報」